



横浜銀行 ニューヨーク駐在員事務所

週間トピックス Vol. 522 (2021. 4. 30)

<今週のトピックス>

Nonfungible Tokens (非代替性トークン)

NFTとは、「Nonfungible Tokens (非代替性トークン)」を略したもので、暗号資産に用いられているブロックチェーン (分散型台帳技術) を利用したデジタル資産のことです。

コピーが不可能な独自の識別情報を持つ、オリジナル「唯一無二」のトークンで、オンライン上のアートや音楽、ミーム (インターネット上で流行した画像や映像) などのデジタル証明の役割を果たしています。

NFTは、オンラインマーケットで落札し、米ドルや暗号資産で支払うことで、入手できます。デジタルアートが数百万ドルで落札されたり、有名人やイーロン・マスク等の企業経営者が参加したりしたことで、ここ最近ブームになっています。

2021年初から、2か月半の取引額は、18億米ドル (約2千億円) にも達しており、すでに2020年一年間の取引額を上回っています。

NFTをはじめとした暗号資産を購入する際の大きなリスクは、価値が主に投機に基づいていることだと言われています。

ワクチンの普及と経済の再開により、自宅で過ごす時間が減り、外で自由に買い物や旅行ができるようになれば、NFTへの需要は低下するとの見方もあります。ただし、NFTを一過性のブームとして片付けてしまうのは、少し惜しい気がします。

【NBA 動画に注目】

公式にライセンス化されたプロバスケットボール NBA の動画ハイライトの NFT に注目が集まっています。この動画 NFT を売買するプラットフォーム「NBA トップショット」は、数カ月前から、バスケットボールファンや暗号資産 (仮想通貨) に熱中している人、スニーカー好き、デイトレーダーや巣ごもり中の多くの人たちを魅了しています。



「NBA トップショット」のあるコレクターは、故コービー・ブライアント選手に贈るレブロン・ジェームズ選手のトリビュートダンクシュートのモーメントを購入したそうです。これはトップショット史上最高額を塗り替えました。その記録である約7万米ドルは1時間も続いたそうです。それから、数週間後には、20万ドルを超える値段を付けたようですので、その値上がり幅とスピードには驚きます。

【アート界の歴史的瞬間】

COVID-19により、リアルなライブパフォーマンスができなくなって1年が経ちました。ミュージシャンは、NFTの販売を通じて、失った収入を得る道を探っています。

電子音楽のアーティスト、ジャスティン・ブラウ氏は、3年前に作ったアルバムをトークン化して総額1160万ドルを稼ぎ出すなど、ここ1カ月にNFTを通じて1700万ドルを手に入れたそうです。単一のNFTとしては一時、過去最高額（360万ドル）を記録しました。

その後、「beeples」と呼ばれるアーティストに破られました。実に6930万ドル（約75億円）という値段で入札されました。

あるメディアは、以下のコメントを残しています。

「この金額は、存命するアーティストの中で歴代第3位を記録するもので、アート界における歴史的な瞬間である」

【初めてのつぶやきに3億円】

2006年、ツイッターのCEO ジャック・ドーシー氏が同社のミニブログサイトに最初に投稿したツイートが、NFTとして競売にかけられ、約290万ドル（約3億円）で落札されました。

同氏の初めてのツイートは「たった今、自分のツイッターを開設した」という内容のもの。

ドーシー氏のツイート自体はツイッター上に存在し続けます。デジタル証明書は暗号技術を用いて署名され、ツイートが投稿された日時などのメタデータも含まれています。

落札した方は、「これは単なるツイートではない！」とツイッターに投稿し、「人々は何年も後



になってから、モナリザの絵画のように、このツイートの本当の価値に気づくだろう」と続けて投稿しました。

NFT は、無形資産であり、年月と共に劣化することがありません。そして、世界に一つしかない、オリジナルのデジタル証明が付いた本物を手に入れることができます。

ただし、マーケットの安定性（価格変動リスク）、詐欺やコピーのリスク、本質的な著作権の問題なども残されています。

2017年に、NFTのマーケットができて、今年でまだ4年目。いくつもの課題も残されている一方で、いくつもの分野での将来性や成長性が期待できるのも NFT ではないでしょうか。今後も、NFTの動向に注目をしていきたいと思います。

(出所：Wall Street Journal, The Washington Post, CNN, beople)

- ・本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・ご利用に関しては、すべてお客さま自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
- ・本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
- ・本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
- ・本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。